試合への参加のしかた

試合に出場する選手、保護者の方はとくにご一読ください。

まず、日頃の稽古を真剣に行いましょう。これは対戦相手への最大の敬意の表し方です。また、試合に関わる全ての人に対する礼儀です。
そして、

１．試合の申し込みが始まったらすぐに申し込みをし、申し込み期限を必ず守る。
２．試合までに必要な防具などを確認し、古くなっていたり、汚くなっていたら新しいものを揃える。
３．当日、応援、サポーターに会った時に「お願いします。」とあいさつする。
４．試合場には決められた手段で集合時間厳守で会場へ。
５．受付その他必要な手続きは早めに済ませる。
６．必要であれば決められた場所での準備運動。
７．開会式の時間までには整然と並び開式を待つ。
８．試合順をしっかりと把握して５試合前までには選手控え場所で待つ。
９．選手係にあいさつ並びにお礼をして試合に備える。
１０．試合場に礼をしてから上がる。
１１．正面、審判、対戦相手に礼をする。
１２．すべて自分の責任において全力を尽くし、最後まであきらめないで戦う。
１３．試合の結果のすべてを審判に預ける。
１４．勝敗にかかわらず、正面、審判、対戦相手に礼をし相手と握手する。
１５．試合場に礼をして降りる。
１６．選手係にあいさつ並びにお礼をして下がる。
１７．もう一度、試合相手にしっかりとお礼を言い健闘を称える。
１８．応援、サポーターにお礼を言う。
１９．勝った場合は次の試合に備える。
２０．負けた場合は道場の他の仲間の応援をする。また、試合を見て勉強する。
２１．全試合終了後、閉会式には必ず参加する。
２２．道場ごとの集まりがある場合は必ず参加する。
２３．すべての日程が終了したら先生、応援、サポーターに挨拶をして帰る。
２４．後日、道場で先生、応援、サポーターにあらためてお礼をする。

※悔しがることと腐ることは違います。大会途中で立ち去ることは学ぶチャンスを逃すと同時に重大なマナー違反です。

勝って驕らず、負けて腐らず

※大会に出場する人は全試合終了後、閉会式まで参加すべきであり、やむを得ない理由により試合場を後にする場合は先生、応援、サポーターにお礼ならびにあいさつをして帰るのが最低限のマナーです。

以上すべてが大会に参加するということです。

極真空手を学ぶ者は技だけでなく心も強くなるように
しっかりと礼儀を身に付け、礼節を実践しましょう。

選手と応援者(支えられると支える関係を考える)、

極真空手は勝負偏重主義です。勝ちにこだわるからこその真剣勝負ですが、試合は技を競い合うだけではありません。**技術と精神の学び場**です。数々の学びの中から「支えられる」と「支える」関係を考えてみましょう。

試合場の上で選手は「どんな動きをするのか？」「どんな技を出すのか？」などすべて**自分の責任**で戦います。したがって試合内容や結果に本人以外の応援やサポーターになんら責任はありません。
しかし、孤独な戦いの中で応援されたりサポートされることに勇気づけられ、とても嬉しいのもまた事実です。

そこで選手は「自分は一人ではない」「自分を支えていてくれるたくさんの人がいる」ことに気付き、尊敬や感謝の気持ち(注1)を学びます。
応援する側もまた、道場の仲間意識や普段の稽古姿を見ているからこそ応援をしたくなり、選手と一緒になって喜んだり、悔しがったりと体験を共有し、協調性(注2)が養われます。

この選手と応援者の関係が「支えられる」(注3)と「支える」(注4)関係でけっして一方通行ではあってはなりません。応援してくれた人が次に試合に出るときには応援する側に回ったり試合の手伝いをするなどの相互扶助の精神(注5)が大切です。

技術は実際にその技を出すことで相手に伝わるかどうかがわかります。
しかし尊敬や感謝など心の中、気持ちの部分は目に見えません。
目に見えないからこそ言葉や態度と言った目に見えるもので相手に伝える、これが礼儀です。

相互扶助の精神、礼儀、礼節を学んでいくのが極真空手の目的の一つです。

注1. 相手を理解し、ありがたいと思う気持ちにより人間関係を大切にし、社会性を身に付けます。
注2. 協力しながら一つの目標に向かっていくこと、誰かの役に立つ喜びを知ることで貢献や献身ということを覚え、社会の中での役割を学びます。
注3. 試合で考えると試合場を設営し進行の手伝いをしてくれるボランティアや審判、応援してくれる仲間、試合をしてくれる相手、全てが揃わなければ試合そのものができない。試合に臨むにあたって教えてくれた先生や先輩、一緒に稽古してくれる仲間がいるからこそ強くなれる。このように誰かに支えられているということの理解により尊敬、感謝の気持ちにつながります。
注4. 自分が誰かのために役立つ経験を通して自己の存在意義を確認し、存在価値を高め、社会の中で必要とされる人間となる基礎を築きます。
注5. 何事もお互い様、お陰さまという助け合う精神。一人は全てのために、全ては一人のために。

大山総裁座右の銘（一部抜粋）

「武の道は礼にはじまり礼に終わる。よって常に礼を正しくすべし」
「武の道において信頼と感謝は、常に豊かなる収穫を得ることを忘るべからず」

※とくに少年部の保護者の方には試合の勝ち負けだけではなく周りの人に感謝の気持ちを持ち、それを伝えることを我々と一緒に教えていきましょう。